

臨床講座②

手術室の内側

病院収入において手術が占めるウエートは大きく、かかるコストも膨大であることから、手術まわりのマネジメントは病院経営において重要な課題と言えます。しかし、手術室は院内で最も敷居の高い場所であるとも言えるのではないのでしょうか。手術室の内側ではどのような体制のもと、どのような医療が行われているのでしょうか。それを知ることで、マネジメントのヒントにしてください。

第1回

外科医療の歴史と
外科系診療科の現状

講師：有田誠司

社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷佐倉市民病院 副院長、外科部長、健診センター所長

議論ができるように、外科医の私が、医療経営士の皆様に知ってもらいたい「手術室の内側」について、今回から連載させていただきます。

テレビドラマに見る
外科医療の歴史

本来なら16世紀前半に創傷の処置からはじまった外科学の歴史から始めるのが筋なのですが、落語や漫才でも最初がおもしろくないと最後まで聞いてもらえないので、近年の外科医療の発展をテレビドラマで見えていきましょう。

言わずと知れた山崎豊子さんの名作『白い巨塔』は時代を超えて3回テレビドラマ化されています。初回の故・田宮二郎さんのシリーズがほぼ原作どおりの設定になっているのですが、表に示すように、医療の進歩に伴って2作目、3作目と状況が変わっていきま

す。ドラマを全部見た方は、手術室の内部や手術スタッフの術衣などが、時代によってずいぶん変わっていることがわかるのではないのでしょうか。

現在の外科系診療科と
主な対象疾患

1作目は胃噴門部癌をバリウム造影検査で診断し、食道空腸吻合を絹糸の手縫いで行っているのに対して、2作目は、内視鏡が消化管検査の主役であり、手術の消化管吻合はE.E.A、G.I.Aなどの自動吻合器で行われています。3作目は小さな肝転移の可能性によりPET（ポジトロン・エミッシヨン・トモグラフィ）検査の追加が提案され、またカルテは電子カルテです。現在盛んに行われている腹腔鏡手術の場面も多く出てきます。

つまり、医療ドラマも時代に合わせて原作を変えていかなければ、「今どきこんなのないよね」となってしまいます。医療経営士も、最新の検査や手術法、器材を知っていなければ、手術室スタッフと対等の議論ができないということになります。

手術が病院経営を
大きく左右する

外科系診療科や麻酔科の医師、手術室の看護師、臨床工学技士などのスタッフが忙しそうに働く特別な空間、事務系の職員や他職種はめったに出入りすることがない、いわば神祕のベールに包まれた空間、それが手術室のイメージ

でしょうか。したがって、医療経営士の皆様にとって敷居が高く感じられ、手術室内の運営に口出しするのはちよつと苦手意識があるかもしれません。

しかし、急性期DPC病院では、手術・麻酔は包括されず出来高となるので、手術数の多寡や手術室の効率的な運営が病院経営を大きく左右します。そこで、医療経営士が手術部のスタッフと垣根なく

ない診療科もあると思いますが、医療経営士としては、押さえておきたい基本知識ですので、ぜひ覚えておいてください。

- ①消化器外科
食道・胃・腸および肝・胆道・膵を対象にする最もメジャーな分野。欧米では一般外科と呼ばれている。規模の大きい施設では、臓器別に独立している場合もある。腹腔鏡を用いた内視鏡手術も盛んに行われている。
- ②乳腺外科
乳腺疾患（主に乳癌）を対象とする。症例数の増加から、現在は

独立した診療科となっている。

- ③内分泌外科
主に甲状腺（甲状腺癌、甲状腺機能亢進症など）や副甲状腺疾患を扱う。以前は乳腺・内分泌外科と一緒にしていた。
- ④小児外科
小児や新生児期特有の疾患を対象にする。頸部、胸腹部の小児科全般にわたる外科治療を行うが、心疾患のみは心臓血管外科領域となる。
- ⑤心臓血管外科
心臓や大血管を扱う分野。人工心臓使用や大動脈解離の緊急手術など大きな手術が多く、スタッフの負担が重い分野でもある。
- ⑥血管外科
末梢血管疾患（下肢静脈瘤や閉塞性動脈硬化症など）を対象とする。
- ⑦呼吸器外科
肺、気管など呼吸器疾患（肺癌が主）のほかに、縦隔腫瘍なども扱う。消化器外科と同様に胸腔鏡を用いた内視鏡手術も行われている。
- ⑧脳神経外科
脳および脊髄神経を対象とする。特に脳腫瘍は時間の長い手術

となる。

- ⑨整形外科
四肢および脊椎疾患や外傷を中心に、骨・関節・筋肉を扱う分野。頸椎から腰椎までの脊椎疾患、関節疾患、骨折などの外傷と守備範囲は幅広い。
- ⑩形成外科
体表面の損傷治療や欠損部の再建（乳房再建など）を行う。美容整形も含む。
- ⑪泌尿器科（英語名urologyからウロ科と呼ばれることが多い）
主に腎臓、膀胱、前立腺、睪丸疾患などを扱う。膀胱癌や前立腺肥大に対する内視鏡手術も行われる。
- ⑫頭頸部外科
耳鼻咽喉科、歯科口腔外科が重複する領域。口腔や頸部の腫瘍などを対象とする。
- ⑬産婦人科（gynecologyからギネと呼ばれることが多い）
婦人科疾患（子宮癌、卵巣癌など）や帝王切開によるお産を対象とする。
- ⑭眼科
白内障、緑内障の手術が主だが、眼内異物の緊急除去手術などもある。



ありた・せいじ

1986年、千葉大学医学部卒業後、同大学医学部第二外科に入局し、外科医の研鑽を積む。94～99年、米国UCLA Medical Centerに留学、1型糖尿病に対する膵島移植の研究・臨床に従事。国立佐倉病院外科医長を経て、2004年、聖隷佐倉市民病院外科部長。08年、健診センター所長兼任、12年4月より現職

表 テレビドラマ『白い巨塔』に見る医療の変化

	財前五郎役	患者さんの死因	怠った診療行為	医療の変遷
1作目 1978年、フジテレビ	故・田宮二郎さん	胃噴門部癌術後すぐの癌性胸膜炎の出現による呼吸不全	術前の胸X-Pで肺転移を疑われたが、胸CTを撮影せず	胃噴門部癌診断がバリウム造影でされている
2作目 2003年、フジテレビ	唐沢寿明さん	食道癌術後すぐの肺転移の急速な進行による呼吸不全	胸CTの読影ミス（転移を炎症の影と決めつけてしまった）	食道癌は内視鏡で診断。消化管の吻合は自動吻合器で行う
3作目 2019年、テレビ朝日	岡田准一さん	膵癌術後すぐに術前からあった肝血管内リンパ腫の急速な進行による肝不全	肝血管内リンパ管種見落とし（CTで微小転移疑いあり、術前PET検査追加や術中肝生検が必要だった）	腹腔鏡手術が多く登場。術前に肝転移疑いでPET検査の追加が提案される。電子カルテの出現